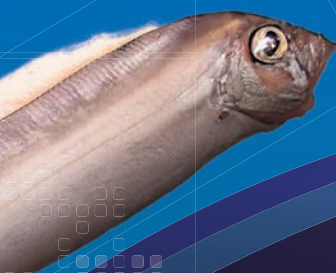


海の生きもの観察ノート①⑥

# 千葉県勝浦沖 キンメ場の魚



千葉県立中央博物館 分館

## 海の博物館

## はじめに

千葉県立中央博物館分館海の博物館では、房総半島周辺に生息する海洋生物の標本を収集して整理・保管しています。体系的に収集するために、当館研究員は各地のフィールドへ出て、担当する分類群の生物を収集しています。また、地元の漁業者の方から漁で混獲された生物を頂くことがよくあり、博物館標本の充実に貢献しています。

この本では、千葉県勝浦沖のキンメ釣り漁で採集された魚類を紹介します。これまでに37科60種の魚類が当館の標本資料として登録されていますが、ここでは24科30種を紹介しています。深海性の魚類が大半で、特異な形態や生態が見られる魚も含まれています。この本を千葉県に生息する魚類の多様性や、食としての魚について考えるきっかけにして頂ければ幸いです。

## もくじ

千葉県のキンメ釣り漁と勝浦沖「キンメ場」	2
魚の各部位の名称	4
写真と解説について	4
魚類の解説(掲載種と頁はp 21を参照)	5
勝浦沖キンメ場で採集された魚類(37科60種)と掲載頁	21
謝辞	22
主な参考文献	22
コラム1 波打ち際で生きたシギウナギを発見!	10
コラム2 未利用魚	15

### 表紙の写真

上:サケガシラ, 中:キンメダイ, 下:アカドンコ

## 千葉県のキンメ釣り漁と勝浦沖「キンメ場」

キンメダイ(p 17)は世界の熱帯域から温帯域に分布し、水深200~800 mの岩場のある海底付近に生息しています。大きな眼が金色に輝くことから、金目鯛きんめだいという名前がつけられています。キンメダイの料理では煮つけが有名ですが、新鮮な魚は刺身や寿司でも食べられます。

房総半島の周辺には、銚子沖、勝浦沖、東京湾口にキンメダイの漁場があり、勝浦沖漁場は「キンメ場」と呼ばれています(図1)。キンメ場の南部は、東西が水深1,000 mを超える勝浦海底谷と鴨川海底谷はなに挟まれて立ちあがった山状の地形になっており、その頂上は水深約300 mまで浅くなっています。その山状地形の周辺が、キンメ釣りの主な漁場になっています。

房総半島周辺にある3つのキンメダイ漁場では、いずれも「立縄釣り」という漁法でキンメダイが漁獲されています(図2)。立縄漁具の先端には、深海の海底に釣針を下ろすためのおもりとして2~3 kgの鉄筋てつじんが切縄きじなわ(引き上げる時に切れやすくなっている細めの糸)に結び付けられています。切縄の次に幹縄みきなわが結ばれており、幹縄には枝状に分岐する50~150本の枝縄えだなわが約1.6 m間隔で結ばれています。枝縄の先端にはキンメダイ用の大きな釣針があり、赤く染められたイカの短冊が餌として付けられています(図3)。こうして海底付近まで幹縄を下し、道糸を伸ばして幹縄が海底付近から離れるように調整します。

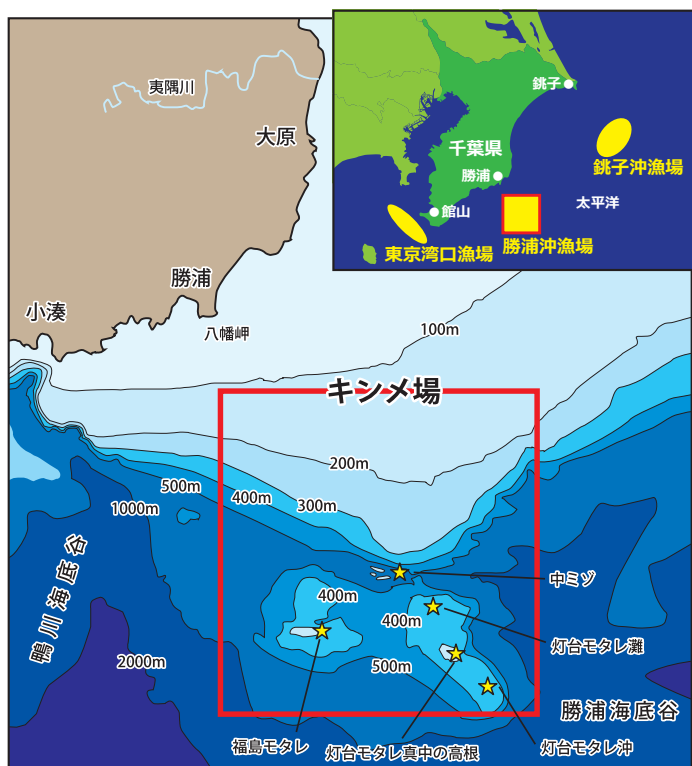


図1. 房総半島周辺の3つのキンメダイ漁場と勝浦沖漁場「キンメ場」

キンメ場で立縄釣りをやっているのは、千葉県おんしゅうく御宿町、勝浦市、鴨川市で小型漁船漁業を営む漁業者です。キンメダイの資源を永続的に利用していくために、漁業者間で様々な規則が自主的に設けられています。キンメダイの漁期は10月から翌年6月までで、繁殖期にあたる7月から9月は禁漁期になっています。1日のうち漁ができるのは日出以降で、操業は4時間までに制限されています。枝縄の数は、その日の1回目のみ150本まで許されていますが、2回目以降は50本までに制限されています。漁獲できるキンメダイのサイズが決められており、全長25 cm以下、体重200 g以下の個体は再放流することになっています。

キンメ釣りの漁船(図4)はまだ真っ暗な早朝に出航して、およそ2時間かけてキンメ場へ向かいます。日の出から立縄漁具を水深約400~600 mの海底に投入し、釣針の付いた枝縄の位置を道糸で調整して、キンメダイがかかるのを待ちます。しばらくして立縄をウィンチで巻き上げ、かかった魚を針から外していきます。水深が深いため漁具を海に入れてから回収する作業に1時間以上かかり、この作業を数回繰り返します。多くの船は昼頃までに港へ戻ってきます。漁獲されたキンメダイは直ちに港にある漁業協同組合へ運ばれて、そこで計量と仕分け(図5)が行われた後、鮮度を保つため氷水に漬けられます(図6)。キンメダイとともに漁獲されて市場に流通する魚として、アコウダイ、アブラボウズ(図7)、メダイ(図8)などが挙げられます。

このキンメ場における立縄釣りでは、キンメダイなど市場に流通する魚のほかにも多くの種類の魚が混獲されます(p 15「コラム2未利用魚」参照)。キンメダイが生息する海底付近で針にかかる魚だけではなく、漁具を下げ上げる途中の表層や中層でかかる魚や、水揚げされた魚が口から吐き出した魚も含まれます。こうして、あまり見慣れない魚が獲れると、漁業者のご厚意で海の博物館へ持ち込まれることがあります。これまでに37科60種、合計212個体(2021年3月末現在)が当館の魚類標本として登録され、千葉県勝浦沖の魚類相や千葉県産魚類の多様性を知る上で貴重な資料として、収蔵庫で保管されています。この本では、これまでに登録された魚類のうち、24科30種について解説します。

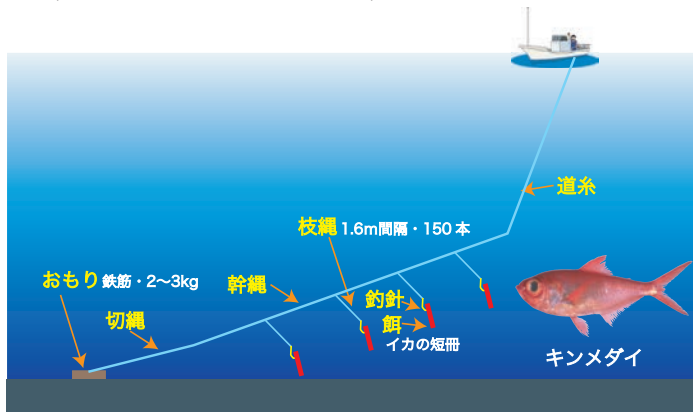


図2. キンメ釣り漁で使用される立縄漁具の模式図



図3. 巻かれた状態の幹縄と50本の枝縄



図4. キンメ釣り漁を行う小型漁船





図5. 水揚げされたキンメダイの計量と仕分け



図6. 氷水に漬けられたキンメダイ

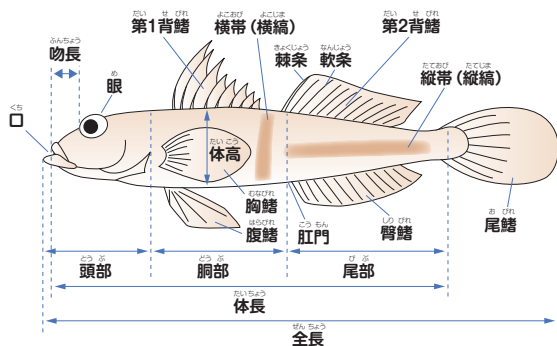


図7. キンメ釣りで漁獲されたアブラボウズ



図8. メダイ

## 魚の各部位の名称



ぜんちよう  
たいちよう  
たいちよう  
たいちよう  
みんちよう  
とうぶ  
とうぶ

体の前端から後端までの長さ  
上あごの先端から尾びれの付け根までの長さ  
ひれを除き体の一番高い部位の長さ  
上あごの先端から眼の前端までの長さ  
体の先端からえらぶたの後端までの部分

とうぶ  
びぶ  
びぶ  
なんじよう  
きよくじよう  
きじよう  
きじよう

えらぶたの後端から肛門までの部分  
肛門から尾びれの付け根までの部分  
ひれを支えている分節のあるすじ  
ひれを支えている針状のすじ  
軟条と棘条

## 写真と解説について

- ・標本写真は、断りがない限り千葉県勝浦沖キンメ場で採集された魚を使用して、その全長と標本番号を付している。CMNHは当館の標本であることを示す固有の記号、ZFは当館で魚類標本を示す記号、5桁の数字は通し番号を表す。
- ・魚類の分類体系と和名・学名表記は、本村(2022)に従った。ただし、魚の掲載順序は誌面の都合で前後する場合があります。
- ・魚の分布は、中坊(2013)を参考にして、国内における太平洋岸の分布を県名に置き換えて表示した。このため、詳細な分布は中坊(2013)を参照されたい。また、中坊(2013)に千葉県の分布が含まれていない場合には、「千葉県\*」と表示した。
- ・魚の解説は、多紀ら(2005)と中坊(2013)等を参考の上、独自の調査や漁業者からの聞き取り結果を交えて記述した。

## ニホンヤモリザメ

ヘラザメ科

*Galeus nipponensis* Nakaya 1975

分布：千葉県以南

### 特徴

体は細長く、頭部は縦扁している。体の背側は灰黒色で腹側は白い。口には小さくとがった歯が多数並んでいる。眼は大きく、その後ろに噴水孔ふんすいこう（矢印）がある。これは、呼吸をする際に水を出し入れする孔で、海底で生活するサメやエイで見られる。ヤモリザメによく似ているが、本種の方が吻が長い。



全長 620 mm, CMNH-ZF17319



眼の後ろにある噴水孔（矢印）



吻の下部と口

## イモリザメ

ヘラザメ科

*Parmaturus pilosus* Garman 1906

分布：千葉県以南

### 特徴

ニホンヤモリザメと近縁の種であるが、本種の体はやや丸っこく見える。また、背びれ、腹びれ、しりびれの先端は丸みを帯びている。眼の後ろに噴水孔があり、海底での生活に適応していると考えられる。



全長 699 mm, CMNH-ZF17415

## カラスザメ

カラスザメ科

*Etmopterus pusillus* (Lowe 1839)

分布：北海道以南

### 特徴

体は細長く、頭部は縦扁している。体は全身が黒っぽい色をしていることが「カラス」という名前の由来になっている。眼は大きく、その後方上部に噴水孔がある。背びれは2つあり、それぞれの前端に毒のあるとげを持つ。しりびれは持たない。漁業者によると、キンメ釣り漁で釣り針が海底についてしまうと本種がよくかかるという。市場には流通しないが、美味(「コラム2 未利用魚」(p15)を参照)。



全長 303 mm, CMNH-ZF17321



刺身



鍋料理

## オオメコビトザメ

ヨロイザメ科

*Squaliolus laticaudus* Smith & Radcliffe 1912

分布：千葉県\*以南

### 特徴

体は紡錘形をしている。体色は黒褐色で、腹部は黒い。背びれと腹びれは小さく、しりびれを欠いている。眼は大きく、その後方上部に噴水孔がある。本種はサメ類で最も小型の種の一つである。



全長 259 mm, CMNH-ZF16435. 写真：立川浩之

## ヘラツノザメ

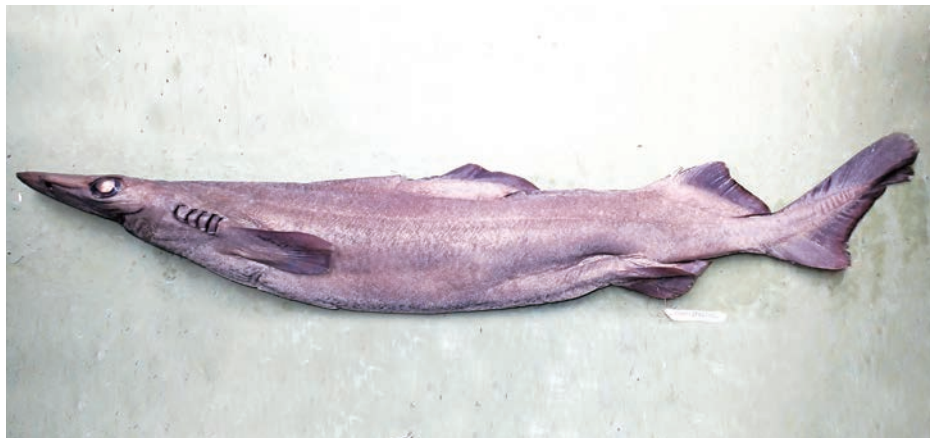
アイザメ科

*Deania calcea* (Lowe 1839)

分布：青森県以南

### 特徴

体は側扁し、頭部は縦扁して吻はへら状で長い。体は全身が灰黒色。背びれは2つあり、いずれも低くて基底は長く、前端にはとげがある。眼の後方には噴水孔がある。サガミザメに似ているが、本種の方がへら状の吻が長く、より縦扁している。



全長 951 mm, CMNH-ZF17855

## サガミザメ

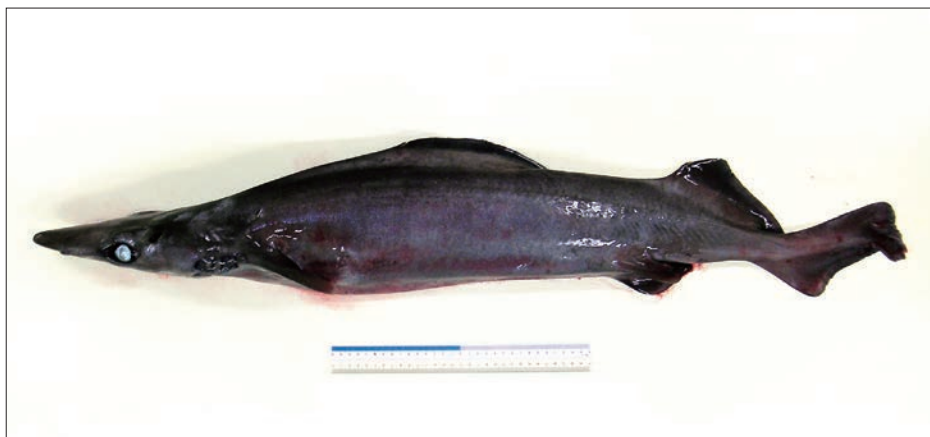
アイザメ科

*Deania hystricosa* (Garman 1906)

分布：千葉県～静岡県

### 特徴

体は側扁し、頭部は縦扁して吻はへら状である。体は全身が黒灰色。背びれは2つあり、いずれも低くて基底は長く、前端にはとげがある。眼の後方には噴水孔がある。ヘラツノザメに似ているが、本種の方が頭部後方から体高がより高くなっていることや、うろこの形状などにより区別できる。



全長 1023 mm, CMNH-ZF17470



## カラスエイ

アカエイ科

*Pteroplatytrygon violacea* (Bonaparte 1832)

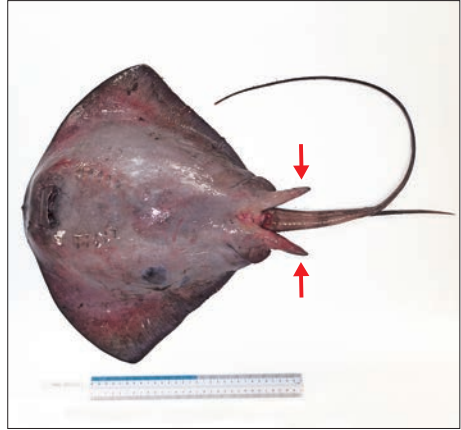
分布：北海道以南

### 特徴

体は縦偏し、背側からみると扇形をしている。背側は暗灰色、腹側は灰色である。尾部は細長く糸状に伸張し、その途中の背側には背びれが変形してできた鋭い毒針がある。この個体の腹びれには交尾につかうクラスパー(矢印)が見られることから、オスであることがわかる。本種は中層遊泳種で、釣り針を上げ上げる際に混獲されたと考えられる。



全長 993 mm, 体盤幅 456 mm, CMNH-ZF17663



腹面

## ギス

ソトイワシ科

*Pterothrissus gissu* Hilgendorf 1877

分布：北海道以南

### 特徴

体は細長く、側扁する。体表ははがれやすい銀色のうろこで覆われているが、頭部にはうろこがない。背びれの基底は非常に長いが、しりびれの基底は短い。仔魚期には、ウナギの仲間と同様の葉形幼生(レプトケファルス)を経て変態する。



全長 470 mm, CMNH-ZF17412

## ホラアナゴ

ホラアナゴ科

*Synphobranchus affinis* Günther 1877

分布：北海道以南

### 特徴

体は黒灰色で細長く、側扁している。口は大きく、えらあなは腹面にある。体には皮ふに埋没した楕円形のうろこがある。イラコアナゴと酷似するが、そのうろこは棒状であることなどから区別できる。アナゴという名前がついているが、昔から広く利用されているマアナゴとは別の科に属する。



全長 561 mm, CMNH-ZF17316

## オキアナゴ

アナゴ科

*Congriscus megastomus* (Günther 1877)

分布：千葉県\*以南

### 特徴

体は灰黒色で細長く、円筒形をしている。尾端部に明瞭な黒い斑点が見られるのが特徴。一般に食用としては利用されていないが、食べられる。館山湾では深海の砂泥底に生息している様子がビデオで撮影されている。



全長 476 mm, CMNH-ZF17315



水深 424 m の砂泥底（館山）



唐揚げ

# シギウナギ

シギウナギ科

*Nemichthys scolopaceus* Richardson 1848

分布：北海道以南

## 特徴

体はひも状で細長く、尾部は糸状で尾びれは見られない。上あごと下あごは長く伸長し、それぞれ上下に反っている。この長いあごにエビなどの触角をひっかけて捕食する。生時は半透明だが、死後白くなる。本種はキンメ釣りの針にかかることはないが、水揚げされた魚が口からはき出したものから見つかることがある。



全長 825 mm, CMNH-ZF17438 ※採集地：静岡市



全長 265 mm, CMNH-ZF18156 エビ（赤い部分）を丸呑みにした個体

## コラム 1

### 波打ち際で生きたシギウナギを発見！

静岡県にある三保の松原海岸には、駿河湾に生息する深海性魚類が冬季によく漂着することが知られています。2011年2月の早朝に現地で標本採集を行っている時、波打ち際で半透明な細長い魚が体をくねらせているのを発見しました。近づいて確認すると、シギウナギであることがわかりました。

水槽で観察すると、呼吸に合わせて長い「くちばし」を上下にパクパクと動かしていました。ただし、くちばしは外向きに反っているので、完全に閉じることはできません。生体観察により標本だけではわからない、シギウナギのユーモラスな姿を目の当たりにすることができました。



静岡県三保の松原海岸



波打ち際に漂着したシギウナギ

## ヨコエソ

ヨコエソ科

*Sigmops gracilis* (Günther 1878)

分布：北海道以南

### 特徴

体は細長く、全身が黒い。大きな口を持ち、上下のあごに鋭くとがった<sup>きば</sup>牙状の歯が並んでいる。体側の背側と腹側には発光器が並び、その数や位置で他種と区別できる。



全長 117 mm, CMNH-ZF17512

## トガリムネエソ

ムネエソ科

*Argyrolepecus aculeatus* Valenciennes 1850

分布：青森県以南

### 特徴

体は菱形で、体側は銀色のうろこで覆われている。眼は大きく、側方、前方、上方のあらゆる方向に視野が開けている。口は大きく上を向いている。頭部から尾部にかけて腹側に発光器が並び、その明るさを海面の明るさと等しくすることにより、自分の影を消すこと（カウンターイルミネーション）ができる。



全長 90 mm, CMNH-ZF17511



頭部正面



頭部上面



## ミズウオ

ミズウオ科

*Alepisaurus ferox* Lowe 1833

分布：北海道以南

### 特徴

体は細長くて側扁し、体表は銀色でうろこがない。背びれは帆状<sup>ほんじょう</sup>で高く、その後ろに小さな<sup>あぶら</sup>脂びれがある。口は大きく、上下のあごに鋭くとがった歯を持っている。本種の詳しい生態はわかっていないが、中層を遊泳して頭足類や魚類を丸呑みにして捕食している。また、卵巣と精巣が同時に成熟する同時的雌雄同体であることが知られている。



全長 476 mm, CMNH-ZF17315

## ナガハダカ

ハダカイワシ科

*Symbolophorus californiensis* (Eigenmann & Eigenmann 1889)

分布：北海道～高知県

### 特徴

体は側扁し、全身は黒っぽい。ハダカイワシ科の魚には、頭部から尾部にかけて多数の発光器が見られ、その位置や数などが重要な分類形質になっている。キンメ場で漁獲される魚がはき出したものから見つかることがあり、これまでに8種の標本が当館で登録された。



全長約 100 mm, CMNH-ZF10245

## ソコクロダラ

チゴダラ科

*Lepidion inosimae* (Günther 1887)

分布：千葉県\*～高知県

特徴

体は黒褐色で細長く、尾びれは小さい。第1背びれ先端の軟条と腹びれの2本の軟条は糸状に長く伸び、下あごには1本のひげがある。



全長 594 mm, CMNH-ZF17544

## チゴダラ

チゴダラ科

*Physiculus japonicus* Hilgendorf 1879

分布：北海道～高知県

特徴

体は茶褐色で細長く、尾びれは小さい。第2背びれとしりびれの軟条は体の前方から尾部にかけて60本以上ある。腹部には発光器が見られる。浅い岩礁に生息し、エゾイソアイナメとされてきた種は、本種と同種であることが最近明らかにされた。



全長 404 mm, CMNH-ZF17872



水深 425 m の砂泥底 (館山)



水深 10 m の岩礁 (勝浦)



鍋料理

## オニヒゲ

ソコダラ科

*Coelorinchus gilberti* Jordan & Hubbs 1925

分布：北海道～高知県

### 特徴

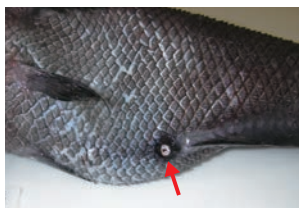
体は黒灰色で細長く、尾部は糸状に長く伸びて尾びれは見られない。吻端は鋭くとがっている。頭部下面に口があり、その周辺にはうろこがない。肛門の周りには発光器が見られる。うろこにはとげがある。



全長 610 mm, CMNH-ZF17325



頭部下面



肛門周辺の発光器（黒い部分、矢印）



とげのあるうろこ

## ムスジソコダラ

ソコダラ科

*Coelorinchus hexafasciatus* Okamura 1982

分布：千葉県\*

### 特徴

体は細長く、尾部は糸状に長く伸びて尾びれは見られない。体側に鞍状の模様がある。吻端は鋭くはとがっておらず、類似するミヤコヒゲより吻が短いことや、頭上にあるうろこのとげの並び方の違いなどにより区別できる。



全長 475 mm, CMNH-ZF17324

# テナガダラ

ソコダラ科

*Coelorrinchus macrochir* (Günther 1877)

分布：北海道以南

## 特徴

体は黒灰色で細長く、尾部は糸状に長く伸びて尾びれは見られない。他のソコダラ類と比較して吻は短く、胸びれが長いのが特徴。



全長 640 mm, CMNH-ZF17326



頭部下面



刺身



鍋料理

## コラム2

### 未利用魚

未利用魚とは、漁獲対象魚といっしょに混獲される魚のうち、市場価値が無かったり、獲れる数が非常に少ないため、廃棄されたり漁業者らで消費されてしまう魚のことをいいます。キンメ場で漁獲されて市場に流通する主な魚は、キンメダイ(p17)など数種だけですが、混獲される魚を含めると60種に達します。

よく混獲されるのがカラスザメの仲間(p6)です。漁業者の話によると、混獲魚を海に投げ入れるとカモメが一齐に取り合いを始めるのですが、このカラスザメには見向きもしないそうです。よほど不味いのか、それとも毒のあるとげを避けているのか？あるとき漁業者からカラスザメを何尾か頂いた際、1尾だけ食べてみることにしました。半身を刺身にしたところ、白身に赤身が混じった肉質で、少しコリコリとした歯触りでなかなかいけます。もう半身は水炊きにしてみたのですが、こちらもクセがなく美味しく頂くことができました。

ソコダラの仲間(p14~15)もよく混獲されます。見た目はグロテスクですが、刺身やフライ、鍋物にするととても美味しい魚です。伊豆地方では深海底曳網で漁獲されて市場に流通していますが、勝浦ではほとんど利用されていません。

最近、SDGs(持続可能な開発目標)という言葉をよく耳にするようになりました。17の目標の1つが「海の豊かさを守ろう」で、その一環として未利用魚を有効活用しようという動きが全国各地で見られるようになってきました。カラスザメの刺身やソコダラ類の鍋物がふつうに食卓に並ぶ日も、そう遠くないかもしれません。



## サケガシラ

フリソデウオ科

*Trachipterus ishikawae* Jordan & Snyder 1901

分布：北海道～高知県

### 特徴

体は銀色で側扁し、長く伸びる。頭部後方から尾端まで続く長い背びれと、上向きにつく尾びれは朱色をしている。深海の中層を遊泳している魚で、稀に沿岸の定置網で生きたまま捕獲されて話題になることがある。



全長 1915 mm, CMNH-ZF17813



口を伸ばした状態



上向きの尾びれ

## ハシキンメ

ヒウチダイ科

*Gephyroberyx darwinii* (Johnson 1866)

分布：青森県～高知県

### 特徴

体は側扁し、体高は高い。体やひれは赤く、やや銀色がかったり。腹部には稜鱗と呼ばれる骨板状のうろこが並び、強いとげが見られる。



全長 373 mm, CMNH-ZF017910



腹部に並ぶ稜鱗

# キンメダイ

キンメダイ科

*Beryx splendens* Lowe 1834

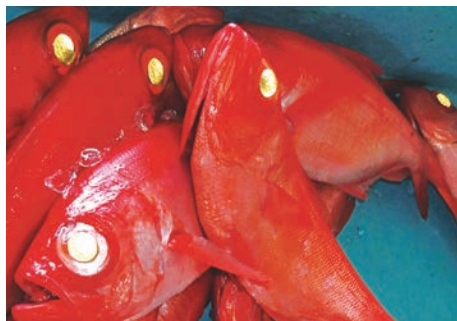
分布：北海道～高知県

## 特徴

眼は大きく、光の当たり方により金色に輝く。死後の体色は鮮やかな赤色だが、生時は赤色が薄く腹部は白っぽい。キンメ場からは同属のナンヨウキンメとフウセンキンメも混獲されるが数は少なく、市場価値はキンメダイより低い。



全長 283 mm, CMNH-ZF17701



金色に光る眼



煮つけ



干物



刺身盛り

## キチジ

キチジ科

*Sebastolobus macrochir* (Günther 1877)

分布：北海道～三重県

### 特徴

口は大きく、頭部に強いとげがある。体は全身が赤く、背びれの中に黒い斑紋ほんもんが見られる。市場では「ぎんぎ」という名前で流通し、高値で取引されている。



全長 235 mm, CMNH-ZF17875

## アカドンコ

ウラナイカジカ科

*Ebinania vermiculata* Sakamoto 1932

分布：北海道～和歌山県

### 特徴

頭部は大きく、体は卵円形をしている。皮ふは非常に柔らかく、水の外に出すと体は重みで縦扁する。福島県などの底曳網そくびきあみで漁獲される個体は、「どんこ」という名前で市場に流通することがある。



全長 380 mm, CMNH-ZF17427



背面



正面



## シマガツオ

シマガツオ科

*Brama japonica* Hilgendorf 1878

分布：北海道～高知県

### 特徴

体は側扁し、体高は高い。側面から見ると、頭部は丸い弧を描いている。口は上向きで眼は大きい。背びれとしりびれにはうろこがあり、胸びれは長い。鮮度の良い個体の体色は銀色であるが、次第に黒ずんでくる。



全長 500 mm, CMNH-ZF17472

## ヒレジロマンザイウオ

シマガツオ科

*Taractichthys steindachneri* (Döderlein 1883)

分布：宮城県～高知県

### 特徴

体は側扁し、体高は高い。シマガツオに似るが、本種の背びれとしりびれの前端付近は長く、それ以降は短い。また、尾びれの後縁は白い。シマガツオとともにキンメ釣り漁で混獲されることがある。美味しい魚だが、勝浦ではほとんど市場に出回らない。



全長 691 mm, CMNH-ZF17967



## ツボダイ

カワビシヤ科

*Pentaceros japonicus* Steindachner 1883

分布：北海道以南

### 特徴

体は側扁し、体高は高い。背びれとしりびれの棘糸は太く長い。同属のクサカリツボダイも混獲されるが、本種より体高が低く、棘糸は短い。



全長 205 mm, CMNH-ZF17966

## マサバ

サバ科

*Scomber japonicus* Houttuyn 1782

分布：北海道以南

### 特徴

体は紡錘形でやや側扁する。体側上部には虫食い状の黒い斑点が多数見られる。市場で流通している北大西洋産のタイセイヨウサバは、本種より斑紋が長い。ゴマサバには体側下部に小さい黒点が多数見られる。



全長 378 mm, CMNH-ZF17413

## クロサバフグ

フグ科

*Lagocephalus cheesemanii* (Clarke 1897)

分布：北海道以南

### 特徴

体は紡錘形で、吻端は丸い。体色は背部は黒鉄色、体側上部は銀色から黄金色、腹部は白。ドクサバフグに似ているが、本種では背部にあるとげは背びれまで届かない。



全長 315 mm, CMNH-ZF17669

■ 勝浦沖キンメ場で採集された魚類(37科 60種)と掲載頁

科名	標準和名	学名	頁	科名	標準和名	学名	頁
ヘラザメ科	ニホンヤモリザメ	<i>Galeus nipponensis</i>	5	フリソデウオ科	サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	16
	イモリザメ	<i>Parnaturus pilosus</i>	5	ギンメダイ科	アラメキンメ	<i>Polymixia berndti</i>	—
カラスザメ科	フジクジラ	<i>Etmopterus lucifer</i>	—		ギンメダイ	<i>Polymixia japonica</i>	—
	ヒレタカフジクジラ	<i>Etmopterus molleri</i>	—	チゴダラ科	ソコクロダラ	<i>Lepidion inosimae</i>	13
	カラスザメ	<i>Etmopterus pusillus</i>	6	チゴダラ	<i>Physiculus japonicus</i>	13	
ヨロイザメ科	オオメコビトザメ	<i>Squaliolus laticaudus</i>	6	ソコダラ科	オニヒゲ	<i>Coelorinchus gilberti</i>	14
アイザメ科	ヘラツノザメ	<i>Deania calcea</i>	7		ムスジソコダラ	<i>Coelorinchus hexajasciatus</i>	14
	サガミザメ	<i>Deania hystricosa</i>	7		テナガダラ	<i>Coelorinchus macrochir</i>	15
アカエイ科	カラスエイ	<i>Pteroplatytrygon violacea</i>	8		ムネダラ	<i>Coryphaenoides pectoralis</i>	—
ソトイワシ科	ギス	<i>Pterothrissus gissu</i>	8	キンメダイ科	ナンヨウキンメ	<i>Beryx decadactylus</i>	—
ホラアナゴ科	ソコアナゴ	<i>Histiobranchus bathybius</i>	—		フウセンキンメ	<i>Beryx mollis</i>	—
	ホラアナゴ	<i>Synphobranchus affinis</i>	9		キンメダイ	<i>Beryx splendens</i>	17
アナゴ科	オキアナゴ	<i>Congriscus megastomus</i>	9	ヒウチダイ科	ハシキンメ	<i>Gephyroberyx darwinii</i>	16
シギウナギ科	シギウナギ	<i>Nemichthys scolopaceus</i>	10	マトウダイ科	カガミダイ	<i>Zenopsis nebulosa</i>	—
ソコイワシ科	ソコイワシ	<i>Lipolagus ochotensis</i>	—	トビウオ科	バショウトビウオ	<i>Parexocoetus mento mento</i>	—
ヨコエソ科	ヨコエソ	<i>Sigmops gracilis</i>	11	メバル科	ユメカサゴ	<i>Helicolenus hilgendorffii</i>	—
ムネエソ科	トガリムネエソ	<i>Argyroteleus aculeatus</i>	11		ホウズキ	<i>Hozakius emblemarius</i>	—
ホウライエソ科	ホウライエソ	<i>Chauliodus sloani</i>	—	キチジ科	キチジ	<i>Sebastes macrochir</i>	18
トカゲハダカ科	クロトカゲギス	<i>Astronesthes indopacifica</i>	—	ウラナイカジカ科	アカドンコ	<i>Ebinania vermiculata</i>	18
アオメエソ科	バケアオメエソ	<i>Chlorophthalmus</i> sp. 2	—	ホタルジャコ科	アカムツ	<i>Doederleinia berycoides</i>	—
ミズウオ科	ミズウオ	<i>Alepisaurus ferox</i>	12	アジ科	ブリモドキ	<i>Naucrates ductor</i>	—
ハダカエソ科	ナメハダカ	<i>Lestidium prolixum</i>	—	シマガツオ科	シマガツオ	<i>Brama japonica</i>	19
ハダカイワシ科	ゴコウハダカ	<i>Ceratopsipelus townsendi</i>	—		ヒレジロマンザイウオ	<i>Taractichthys steindachneri</i>	19
	アラハダカ	<i>Dasyopselus asper</i>	—	カワビシヤ科	ツボダイ	<i>Pentaceros japonicus</i>	20
	トックリハダカ	<i>Diaphus bertelseni</i>	—		クサカリツボダイ	<i>Pentaceros wheeleri</i>	—
	マメハダカ	<i>Lampantycus jordani</i>	—	イボダイ科	メダイ	<i>Hyperoglyphe japonica</i>	—
	ススキハダカ	<i>Mycotophum nitidulum</i>	—	サバ科	ゴマサバ	<i>Scomber australasicus</i>	—
	オオクチイワシ	<i>Notoscopelus japonicus</i>	—		マサバ	<i>Scomber japonicus</i>	20
	イサリビハダカ	<i>Notoscopelus resplendens</i>	—	フグ科	クロサバフグ	<i>Lagocephalus cheesemanii</i>	20
	ナガハダカ	<i>Symblophorus californiensis</i>	12	ハリセンボン科	イシガキフグ	<i>Chilomycterus reticulatus</i>	—

千葉県立中央博物館分館海の博物館に標本資料として登録された 212 個体による (2021 年 3 月現在, 未同定種はリストに未掲載). 青字は表層・中層遊泳時に混獲されたと思われる種, 緑字は水揚げされた魚が吐き出した物から得られた種. 分類体系は本村 (2022) による.

## 謝辞

この本で紹介した魚の大半は、地元の新勝浦市漁業協同組合および勝浦漁業協同組合に所属する小型漁船漁業を営む漁業者の皆様から提供を受けたものです。キンメ場の魚類は、漁業者の皆様のご協力無しに当館の標本資料として蓄積することは出来ず、この本の発行も叶いませんでした。ここで、漁業者の皆様へ厚く御礼申し上げます。

## 主な参考文献

- ・ 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, 2013. 中坊徹次編, 東海大学出版会.  
日本産魚類を形態的特徴から検索して種同定ができる。
- ・ 新訂 原色魚類大図鑑, 2005. 多紀保彦・他監修, 北隆館.  
精密なカラー図版とともに形態的特徴が詳しく記載されている。
- ・ 日本産魚類全種目録, これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 13, 2022. 本村浩之.  
<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html>  
これまでに記録された日本産魚類全種の最新の標準和名と学名が記載されている。
- ・ キンメダイ資源の持続的利用をめざして-漁業者が守り続けた50年間-. 2004. 上村武男, 平成16年度水産業青壮年女性活動実績発表大会資料. <https://www.pref.chiba.lg.jp/sj-katsuura/documents/happyou-h16.pdf>  
勝浦沖キンメ場におけるキンメ釣り漁の漁法やこれまでの歴史, キンメダイ資源の推移や保護の取り組みなどについて紹介されている。

### 海の生きものの観察ノート 16 千葉県勝浦沖キンメ場の魚

2022年3月31日発行

著者 川瀬裕司 千葉県立中央博物館分館海の博物館 主任上席研究員

発行 千葉県立中央博物館分館海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123 電話 0470-76-1133

URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/>

印刷 (株)アイポップ

〒299-4333 千葉県長生郡長生村七井土1741-7

Fishes of the Kinmeba Fishery off Katsuura, Japan

Hiroshi Kawase

© Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba

2022 Printed in Japan



ちば

